

北海道
旭川市長選

「明るい会」が総決起集会

18.11.6

北海道旭川市の日本共産党旭川地区委員会も参加する「明るい旭川の会」は4日、旭川市長選（11日投票）で市民と野党が推す現職の西川まさひと候補を勝たせようと決起集会を開きました。約200人が会場を埋め、熱気があふれました。

沖縄のようになたかおう

「明るい会」の守屋敬義代表幹事のあいさつに続いて、歓声と拍手で迎えられた西川候補が登壇。「4期目も子育て支援にしっかり取り組み、私たちの宝物・財産である子どもたちが元気に成長していける町づくりを一生懸命進めていきます」と力強く表明し、「頑張れ頑張れ、がんばれまさひと」のコールがわき上がりました。

構成団体代表が決意を表明。道北勤医協の八重樫典生専務は「病院にかかりたくてもかかれぬ人が相次いでいる。お金の心配なく医療・介護が受けられ、誰でも安心して暮らせる旭川へ力を尽くします」と語りました。

新日本婦人の会旭川支部の山崎育子支部長は「安倍政権の社会保障切り捨てで、女性の願い実現が困難になってきています。子ども医療費の助成拡大を進めてきた西川市長4選で女性の願いを進めたい」といいます。

旭川民主商工会の谷

川広光会長は「相手候補が主張する国直結の市政では、沖縄の翁長県政以前のような行政と同じになる。そうはさせない。西川候補を勝たせたい」と強調。旭労連の杉原和人議長は「西川候補が私たちの要求を政策に盛り込んだことは画期的で意義あること。自民党政に断じて戻さない」と力を込めました。

石田尚利党旭川地区委員長は「私たちが一人ひとりに声をかけ、支持を届けなければ勝ち抜くことはできません。最大限、知力を尽くして頑張らぬ」と訴え。能登谷繁党市議団長が、西川候補の出陣式で玉城デニー沖縄県知事からビデオメッセージが紹介されたとのべ、「北の大地、旭川からも沖縄のようにたたかい、安倍政権への審判を下そう」と呼びかけました。守屋代表幹事の音頭で「団結がんばろう」を唱和しました。

子育て応援の西川さん4選を



西川候補（右から4人目）の必勝を誓う決起集会の参加者。4日、北海道旭川市